



本校では、「鹿児島きこえの交流会」を実施しています。今年度は地域の児童生徒への運動会種目参加の呼びかけや、12月の保護者を対象とする講演などを行いました。校内外の難聴児や保護者の交流、情報交換の場となることを目的としており、過去には小学生、中学生の児童生徒同士の交流会や、人工内耳メーカーの方や特別支援教育を専門とする大学教授をお招きしての講演も実施しています。

去る12月4日(金)の講演会には、校内外の保護者及び支援者34人と本校職員が参加しました。講師はNPO法人デフ Network かごしま理事長の澤田利江さん、筑波技術大学産業技術学部長の加藤伸子先生にお話をいただきました。

以下は、参加者や本校からの加藤先生への質問とその回答です。



筑波技術大学は、茨城県つくば市にある、日本で最初に視覚障害者または聴覚障害者であることを入学条件にした国立大学法人。本校中学部卒業生2人が「産業技術学部」、「共生社会創成学部」に在学中。

1 筑波技術大学に入学してほしい人材、聾学校に対して求める人材像について教えてください。

本学のアドミッションポリシーには、意欲に関する表現が多くあります。夢や意欲をもって取り組むことは、未来を切り拓く何よりの原動力であり、学ぶこと・考えること・想像し創造することは、人が本来的にもっている力かと思います。

聾学校は、**学ぶ楽しさを感じながら、真っ直ぐな夢や意欲をもって伸びていく力**を育てていただける場所だと感じています。

筑波技術大学は入学してから卒業するまでに、**きこえない・きこえにくい学生が飛躍的に伸びる環境**がある大学です。学生自身が高校までに培ってきた芽がさらに伸び、花開く場所になれば何よりかと思います。

2 筑波技術大学ではどのようなことを専門的に学んでいますか。また、就職先にはどのような企業等がありますか。

筑波技術大学の産業技術学部及び共生社会創成学部では、きこえない・きこえにくい学生が、**情報・建築・機械・デザイン・障害社会学**などの文系から理系までの幅広い専門領域と、**情報保障工学**を含む支援技術など共生社会を切り拓く実践力を学ぶことができます。

就職では、それぞれの専門に応じて、**IT系企業・建設建築系企業・電機メーカー**等々の日本を代表する企業の大卒総合職(研究、開発、事務)や、**公務員、ろう学校の教員**など幅広い職についています。

3 企業は筑波技術大学の学生(聴覚障害者)にどのような人材像を求めているのですか。

企業が求めている人材像としては、**自身の障害特性を理解し、IT機器を駆使し、自ら学び続ける力**をもち、**周囲に建設的に働きかけていく人材**が求められています。筑波技術大学では、そのような力を培うために、様々な体験や挑戦ができる環境を用意しています。

また、お話をいただいた中で、「**情報量×経験**」というキーワードが印象的でした。

情報量
×
経験

- ① 情報量が多いほど、状況を多角的に分析ができる⇒論理的思考力の土台
- ② 考えて、実際にやってみて、議論して、という体験を積み重ねる。
- ③ 体験と知識(情報)は結び付き、学習は単なる暗記ではなく、生きた知識となる。
- ④ 体験を説明することで情報にかえ、情報を次の体験で試すことで、成長が加速する。

情報を獲得し、体験を共有する手段は、時と場面に応じて、最も適した言語や手段で、遅延なく、十分に獲得できる環境が望ましいと考えられます。実際に、筑波技術大学の学生・卒業生は、場面に応じて様々なIT機器とコミュニケーション手段を使い分けていて、卒業後の長い人生の中で多様な手段が使えることは、活躍の場を広げるとともに、心理的安定性にもつながっているのだとのことです。教えていただいた多くのことを念頭に、引き続き本校での指導、地域への聴覚相談支援をしていきます。



鹿児島県立鹿児島聾学校

代表 TEL 099-228-2200 FAX 099-228-2211

聴覚相談センター(外園)

【直通】TEL 099-228-2300 FAX 099-228-2311

お気軽に ご相談ください(^_-)☆

★ 相談は無料です。

★ 相談内容に関する秘密は厳守します。

★ 全ての支援事業は聾学校への就学を勧めるものではありません。